

神戸マラソンへの
挑戦状！



「ありがとう」を、この街と。

私への挑戦状

兵庫県 高橋 愛

去年神戸を走るつもりだった。エントリー後に癌がわかったが強く乗り越えるはずだった。だが私は必要以上に病気を恐れ家族に弱音を吐いた。負けるもんか、言い聞かせても足が回らなくなった。医師・妻・母・ランナー、どれも失格。あんなに走りたかった神戸を諦めた。二度と走れないかと思った。手術を終えても心は患者のまま。完治しても日常から失ったものがあれば病気を越えられない。私の日常から消えたもの、42.195km。走ることで病気から救われたという金哲彦さんの記事を読んだ。走ってみるか。時計だけを見て走ってきた私が春一度も時計を見ずに走った。見えたのは菜の花と山と空。走り終えて見た時計。4時間10分。しまった！でも清々しかった。癌、越えたようだ。42.195kmには不思議な力がある。

「神戸への挑戦状」それは私への挑戦状でもある。目標、私の最速3時間26分6秒、今年も言いたいところだが、ひとまずスタートにすら立てなかった自分の弱さを越えよう。黄色の手袋を空高く掲げる時が私のリスタート。神戸の42.195kmを走り終える時人生の山をまた一つ越えるだろう。走るの、やっぱりやめられない！

KOBE MARATHON
2023